

## 事後評価シート

調査研究課題名	都市環境施策の社会的・経済的影響の定量評価に関する研究
担当者	研究調整官 瀬本浩史、研究官 江岡幸司 前研究官 片岡孝博
当初目標と目標達成度	<p>&lt; 都市環境施策の総合評価 &gt;</p> <p>本研究では「環境負荷」「生活の質」「経済」を評価軸として設定し、各施策の有効性について検討を行う。また、都市環境施策として総合的な施策展開を把握できる様に、各施策は個別に評価するのではなく、パッケージとして施策を組み合わせ評価し、都市構造の変化のもとでの各評価軸の効果を計る。</p> <p>&lt; 評価結果 &gt;</p> <p>趨勢型都市構造を都心居住型に改変することにより、CO<sub>2</sub>排出量、騒音の大きい地区の減少効果が期待でき、更には市民の利便性の向上が見込まれる。一方副都心型に改変すると趨勢型よりもCO<sub>2</sub>排出量、騒音の大きい地区の減少効果は薄まるが、NO<sub>2</sub>曝露人口の減少、市民の安全性の向上には寄与することが見込まれる。以上より、当初の目標であった施策の組み合わせおよび都市構造の変化による各評価軸の効果を定量的に計ることができた。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>&lt; 各評価軸間の相互関係 &gt;</p> <p>各評価軸の相互関係を定量的に計ることに際して困難を極めたため、有効と思われる変数のみ相互交換し、各評価軸ごとの推計結果を取りまとめることで総合評価とした。この点において、今後各評価軸の整合性を精査する必要がある。</p> <p>&lt; 評価指標の検討 &gt;</p> <p>各都市構造施策下における想定施策を主に交通施策が中心としている。今後さらなる民生施策や経済施策についても検討が必要である。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>4名の有識者を招聘し、研究会を設立し議論を重ねた。また、土木計画学会への発表をおこない、広く研究結果を公表し、各有識者の意見をいただいた。</p>
成果と活用（予定）	<p>本モデルケースは仙台都市圏を中心として研究を行ったが、今後は本モデルを地方中心都市および大都市へ発展させ、各地方自治体の施策立案支援ツールとして活用していただけるよう、より使いやすく簡便なものへと発展すべく研究を重ねていきたい。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月に「土木計画学研究会」にて発表。</li> <li>・ 機関紙「PRI レビュー」に概要を掲載し、省内外の関係者へ配布。</li> <li>・ 報告書を省内外の関係者へ配布および研究所HPにて公開（予定）</li> <li>・ 仙台市、宮城県に報告（予定）</li> </ul>
内部評価委員会意見	    